

第7回つくば市未来構想等審議会 専門部会の議事要旨（班順）

日時 : 令和元年8月6日（火）、7日（水）

場所 : つくば市役所6階 全員協議会室1、2

1班の基本施策・重点戦略について：専門部会A（1日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
1-1	P20 基本施策の名称について、福祉の文言が2回出てきているため、言葉を使い分けたいと思う。 2030年の未来像の「福祉」はどの文言にかかっているのか。	□「地域で支えあう福祉」は見守りといった互助の内容について、「医療、介護、福祉」は市の介護サービスを意図して記載していたが、改めて表現は検討したいと思う。2030年の未来像の「福祉」は、「充実した医療や介護、必要な目配りや支援など」の言葉にかかっている。(WT) ■2030年の未来像までの内容については昨年度のワーキングチームで決定した内容ではあったが、必要に応じて修正を行っていく。
1-2	民生委員と区会のコミュニケーションはほとんどない実態だが、重点戦略の中で「見守り」について、地域の見守りに関する記述は行わないのか。	□今後つくば市では見守りをしている団体から情報提供をしてもらい、つくば市全体で見守りが行える体制を整えたいと考えている。細かい議論になってきたところで、社会の見守りについて検討したいと考えている。(WT)
1-3	包摂都市については、子ども、高齢者、障がい者などの個別の対策でなく、それらを包含できる動きになると思う。「つながりを力に」という基本理念に結びつかない重点戦略に思える。 学校は地域の核になると考えているため、今回の議論内容をぜひ活かしてほしい。	□重点戦略1に記載している内容がご指摘いただいたものに近い内容だと考えている。ただ、いきなり達成することは難しいため、高齢者の集いの場に子供や障がい者を集められるような仕組みを作れたらと考えている。(WT) □現在の条例上、学校を集いの場にすることは困難である。

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
		(委員)
1-4	WT 同士で各項目の課題を出し合い、新しい発想で事業提案をしたらどうか。	—
1-5	学校施設の利活用は、校長の立場上使用することが難しいが、集会所の利活用などについて今後検討したらよいと思う。	—
1-6	地域を支えようとする意欲のある高齢者と、支援が必要な高齢者の区別をした福祉の対応が必要であるとする。	—
1-7	重点戦略の4つをつなぐ、何かを作るといような表現を加えたらどうか。	☐ いただいたご意見をもと検討したいと思う。(WT)
1-8	超高齢化社会に起こりうる諸問題について、どのように認識し、考え、評価するか。 重点戦略4について、認識が甘い印象がある。重点戦略の中でも具体策を記載したらどうか。	☐ 地域の人たちの見守り活動、地域包括支援センターの配置等を行うことで、医療、介護、福祉のサービスの対応をしたいと思う。指標については、在宅死や孤独死に関する数値について検討したいと思う。具体的な内容については今後記載するか否かを含め、改めて検討したい。(WT)

2 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 A（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
2-1	「健康診断の受診率」については、職場で受診する方は除いて計測しているのか。	□国民健康保険の対象者としており、特定検診は 40 歳から 74 歳までの受診率である。(WT)
2-2	全体としては科学技術によるイノベーションを大事にしていくことが重点になってくると考えている。また、これからはシェアするという考え方が極めて重要になってくるが、この未来構想・戦略プランの中でどのように考えているか。	□ワーキングチームでも今後検討していきたいと思うが、多様な働き方の「多様な」という点について、「シェア」という考えも踏まえつつ検討させていただきたい。(WT)
2-3	「100 歳まで元気で」ということについて、市の対応としてはどの辺までやるべきなのか。後期高齢者の検診についてはどうなっているのか。また、就労について 70 歳過ぎの人、80 歳でも働きたい人の仕事の場・内容をどこで誰が設定するのか。ボランティア的にやるという意味での生涯現役という風に考えていくべきなのか、その辺を疑問に思っている。	□1 点目の 75 歳以上の方の検診について、後期高齢者検診があり、75 歳以上の方は 74 歳までの方と同じ検査項目で検診ができる。2 点目の高齢者の就業については、その方にあった社会参加の仕方ということで、ボランティアでの参加以外にもご近所の健康な方が、例えば足がご不自由な方のごみ捨てにお手伝いに行くとか、そういうのも立派な社会参加と捉えて環境づくりができたらいいいと考えている。(WT)
2-4	後期高齢者の受診率は指標に加えることは可能か。	□指標に加えることは可能である。(WT)
2-5	指標については「スポーツの実施率」とあるが、一般的なスポーツ以外にも日常生活における運動なども取り入れてみるのもいいと思った。もう一つが、高齢化率が上がっていく中で、要介護認定率（割合）の削減がどう実現されるのか。	□高齢化率については、つくば市は他の市町村に比べて低い状況にある。高齢化率と要介護認定率の比較として、高齢者は今から多くなっていくが、その中でもより健康な人を計るのが認定率ということで、今回はこの指標を定めている。(WT)

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
2-6	シェアするということは様々な形で可能性が広がる考え方と思っている。働き方だけではなく、他の施策・戦略でぜひ検討してほしい。	—
2-7	「引きこもり・閉じこもりの人がある」と書かれているが、これに対する対策、こういった方のご家族へのアプローチはどのように行っているか。	□閉じこもりについては、地域包括支援課にて民生委員を通じて行っており、ある程度把握できている。引きこもりについては、実態はまだまだ分からない状態である。(WT)
2-8	“現役”という言葉を使うと抵抗を感じる人がいるようにも思う。	□再度、検討する。(WT)
2-9	行政は頑張って広報しているが、比較的元気な高齢者でも、「詳細はWEBで」とあるとその先の情報を見ることができないため、広報の仕方を考えていただきたい。	—
2-20	健康でない人たちを取りこぼさないためにどうするのかについて書かれているとより良かった。	□今後、検討していく。(WT)

3 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 A（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
3-1	基本施策の名称に関して、「つながりを力に」という目標を掲げているが、“自己責任”という言葉が使われており、周囲に支援を求めているというニュアンスを感じる方もいるのではないかと思う。文言について再検討して欲しい。	□皆さんがつながりあう前に個人個人がやるべきことをやった上でつながる必要があると思っている。その次のステップとしてつながりというものがあるのではないか。ベースの部分をしっかりしていただきたいという思いから“自己責任”という言葉を入れた。(WT)
3-2	地域の防犯・防災について地域の皆さんとお話しをする機会があるが、何もしないで何とかしてよという人が大半。地域全体を見ろとはいっていないので、せめて自分の家のことは自分で守れと言うと理解してもらえるのではないか。	—
3-3	“自己責任”を基本施策にすると、公衆衛生の内容が入っており、これは 100%自治体の責任なので、この言葉は使えないと思う。空き家と空き地について書かれてあるが、国においても対策を検討していて、法律の縛りが大きく地方自治体でやれることが限られるので、なくてもよいのではないかと思う。	□空家等対策計画を策定しており、その中で、市民の方から相談を受けたものに関して現地確認をして、所有者を探し、適正に対処していただく取り組みをしている。(WT)
3-4	“自己責任”を前面に出すのはやめたほうが良いと思う。人々が持っている様々なリソースを人々のために分け合うという視点がこの問題に対しては重要なのではないか。	—
3-5	“自己責任”ではなく、柔らかく、かつ伝わる言葉でいうと、「地域や市民一人一人の備えを後押しするまち」とか、その程度のニュアンスであれば伝わると思うがいかかが。感染症の話については、重点施策等にわざわざ書き込まなければなら	□表現については、参考にさせていただく。予防接種のところは、つくば市は住民の移動が多く、それをどのように漏れのないようにやっていくのか担当部署で一生懸命議論しているため掲

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
	ない内容なのか疑問。また、空き家の有効活用については、わざわざ他の班と別立てする必要があるか確認したい。	載した。空き家・空き地について、行政代執行につながるようなものがあるか継続的に考えていきたい。(WT)
3-6	イベントを通して備蓄の大切さを訴えることは大切だが、お店など消費が近いところで訴えるかけることも重要であると感じた。また、ジョグパトの効果を行政側がどれだけ考えているのか教えていただきたい。防犯灯の LED 化事業について、LED にすることに効果があるのか疑問。アンケート結果からも道の暗さを改善すべきなのではないかと思う。	□店頭販売については考えていきたい。ジョグパトの効果は、抑止力としての効果があると考えている。明るければ犯罪が起きないのかという議論があったが、見えない空間から少しでも明るくしようということで取り組んでいる。防犯面では必要なためそのまま継続して取り組むことを考えている。(WT)
3-7	防災無線はつくば全域に設置しなくてもよいのか。	□現在、つくば市で防災無線を設置しているのは主に土砂災害警戒区域・浸水想定区域である。携帯電話・スマートフォンの普及に合わせ、エリアメールによる伝達を進めている。また、防災無線は一機 500 万かかるので、情報発信の方法としては別の方法についても検討中である。(WT)
3-8	空き家に限らず、隣近所で木の枝等が交差していることがある。隣近所で迷惑にならない範囲で枝や庭をきれいにしていただく方法として、行政よりもそのまちの人が直接言ったほうが効き目がある。そのために隣近所の人と連絡を取れる方法を考えてほしい。	—
3-9	情報公開法の縛りがあるが、ある程度責任をとれる方には情報を流してもいいのでないか。考えていただきたい。	—

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
3-10	意識啓発の活動は色々しているようだが、出前講座等の数等も立派な指標になりえると思うが、最終的にどうなったかを指標にしているということは、伝えただけではだめという思いがあるからなのか。	□出前講座については、大きな災害が起きると講座数が増える。また、それぞれが色々な活動をしているため全てを把握することはできないということもあるので指標としては今回は結果のみ採用している。(WT)
3-11	防災キャラバンや防災カフェ等の活動は今後考えていないのか。	□防災のイベントは今後少しずつ行っていく予定である。(WT)
3-12	新しい情報伝達の手法を考える際に、社会的弱者にも配慮した方法を検討してほしい。	□検討する。(WT)

4 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 A（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
4-1	重点戦略に番号がついているが、順番と優先順位は関係あるのか。	■基本的には優先順位と戦略のストーリーを考慮して順番付けをしている。（事務局）
4-2	市の予算状況を考えるとインフラを全て管理することは難しく、不可能なことはできないというべきである。市全体の中で何をやるかということは検討していただきたい。	□5 年間でやることを考えて順位付けしている。現実的には、壊れる前に対処していくことを考えて記載した。（WT）
4-3	前半・後半に分かれているが、そのスパンの考え方についてどのように考えているか。	■全体の構成としては、2030 年の未来像に向けて、前半 5 年・後半 5 年としている。 □6 年目以降の優先順位は改めて検討していく。（WT）
4-4	「集約化の方針の策定」とあるが、まとめる方向性について教えていただきたい。本当に必要な需要とサービスの関係についてどう考えているのかについてどのように考えているか。	□集約化・複合化については、その地域でどのようなサービスが必要になっているかという現状分析や情報公開が前段にあって、方針を決めていくことが大切と考えている。情報を公開してみなさんとともに形にしていくことにしたいが、ルール作りも含めて方針を作っていきたい。（WT）
4-5	単純にダウンサイジングとはいかない。数としては減少したが、結果便利になったといってもらえるよう他の班と協力することも重要である。	—

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
4-6	公共施設のコストを下げたり、集約すると市民の満足度は下がると思うが、今回なぜ指標として満足度に注目したのか伺いたい。また 2025 年に果たしてそこまで上がるのか。 また、公共施設に係る費用等については、料金割合はどうなっているのか。公共施設の長寿命化は、一人一人に与える影響・期待が少ないように感じられる。	□道路等のインフラサービスに限って一つの指標として設けており、施設については対象外としている。また、後者については、利用料については受益者負担という考えがあるなか、施設の付加価値をあげて利用割合を向上させることが大切と考えている。公共施設の維持管理に費用を充てることなどを考えている。(WT)
4-7	今の質問に関連し、使用料を増加させることは減免の利用者が多い現状ではなかなか難しいので、稼働率をみるための指標などにしても良いように思う。	□人数で見ると利用率は上がっているが、収入・料金が少なくなることもある。そこを区別できるようにできればなおよい。(WT)
4-8	料金を上げるということが狙いではなく、維持しているものを適切に利用してもらうことが狙いだと思う。満足度については、適正化させても満足度は下げないということも重要ではないか。	□今後、検討したいと思う。(WT)
4-9	満足度については、アンケートをとることが一般的であるが、逆に不満足に着目してそれをなくすような指導を設けることも一つの方法である。	□改めて検討したい。(WT)

5 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 A（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
5-1	つくばジオパーク活動を今後 10 年間でさらに伸ばしていくための新しい取り組みは検討しているか。	□科学技術やユニバーサルデザインをしっかりと活かして、引き続きやっていきたい。今年度からジオパークの拠点施設を検討中であり、それらの仕組み作りを考えていきたい。(WT)
5-2	重点戦略 1 について、ここでは自然のみに限定しているが関連する文化財や遺跡等を含める必要はないのか。	■80 ページの 13 班の重点戦略の 4 つ目のところに記載しており、その中で検討していくことを想定している。 □ジオパーク活動の中では、歴史や文化等を総合的に紹介していくことが大切である。これらを残していくためには魅力を知っていただくことが大事だが費用がかかる。それを観光業でうまくまわして保全に向けてお金を取り込めるような循環型のシステムがジオパークの役割であることから「保全」だけではなく、「活用」も含めて検討していきたい。(WT)
5-3	県の活動に参加し、牛久沼の活用について考える機会があった。きれいにしたいからテーマに取り上げたいと思ったが、龍ヶ崎市の管轄で何回言っても変わらない現状があり、難しいと思うところもある。	□牛久沼についてあげられているものの、大半が龍ヶ崎にあり、どこまでつくば市が活動していくのかという議論がある。ジオパーク活動の取り組みに関する発表を通して、まずは子供たちに地域の良さを知らせることが大切なことであると感じた。子供から伝えていくことで地域に自信を持つ人々が増えていくと考えている。(WT) ■牛久沼については、一昨年から牛久沼周辺の首長会議を設置し、利活用について話し合っている。龍ヶ崎から、6 号国道沿いに道の駅の構想を持っており、それに合

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
		わせて牛久沼周遊のサイクリングロードやウォーキングコースを行いたいという提案がある。つくばとしては参加したい旨を伝えている。
5-4	借景で独自に何かをやるという考えもあるのではないかな。	□引き続き検討していこうと思う。(WT)
5-5	「筑波山・牛久沼などの美しい景観」については、活用は進んでいないが牛久沼も言葉として入れてほしい。筑波山は有名だが、行く回数や登る回数が住民でも少ない。健康面との関係で、筑波山に何回登ったという記録表を残してはどうか。りんりんロードを走った回数など 100 歳まで生きる一つの方策としてやっていくのはどうか提案したい。筑波山に行きたい人がいても駐車場の問題がある。ピストンバスを走らせたり、観光客がスムーズに上げられるような方策を考えていくことがつくばをよいまちにする一つの方法だと思う。	□健康長寿はジオパークも意識しており、ツアーや街歩きを実施し、ジオパークは健康にいいというスタイルを PR していきたい。渋滞対策については、検討を続けていく。ジオパークをいかして地域の良さを含めて、地域を愛する気持ちになってもらえれば、観光客に対してもそのような対応ができるのではないかなと思う。(WT)
5-6	牛久沼“など”と入れることについてはどのようにお考えか。	□市民意識調査の項目にもなっているので大丈夫かなと思う。(WT) ■未来像についても必要に応じて見直すこととしているため、変更を検討したい。
5-7	筑波山に人がたくさん来るようになることはいいことであるが、山のマナーの面を考えていかなければいけない。全体に関することであるが、筑波らしさをもう少し出してもいいのではないかなと思う。身近な自然といえばペデストリ	□守るべき自然とは何かについて検討し、ゾーン分けを行い、ターゲットを絞って取り組んでいきたい。(WT)

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
	アンデッキのような豊富な緑をイメージしてしまうが、担当が別の課になっていたので、そのあたり誤解がないような表現の仕方はないのか。	
5-8	「多忙による子育て世代の環境問題への無関心」とあるが根拠はあるのか。むしろ、子育て世代の方が環境問題に関心があるように感じる。そういった子育て世代へのアプローチについて記載されていないが、どう考えているのか。	☐ 確認・検討する。(WT) ☐ 逆に子育て世代の方が関心が高いと思うがどうか。(委員) ☐ 多忙というところを少しクローズアップしすぎたので再度検討する。(WT)
5-9	中学生と高校生は多忙でこれらの親はほとんど外へ行けなくなる。夏休みの少なさや宿題などといった学校の縛りから解放しないと親も動けないので、自然に触れる機会が失われていく。そこを検討していくべきである。	—
5-10	先ほどゾーンという話があったが、「自発的な保全活動の推進」について、保全することのインセンティブがあまりにもなさすぎると思うが考えがあれば教えていただきたい。	☐ かつて環境ポイント等があったが、今後自分の行動が自分に返ってくるものがないと真剣に考えてもらえないだろうなという点で悩んでいる。(WT)
5-11	農地は農地として生かしたほうが自然として正しいが、中間的な雑木林などの対策についても考えていただきたい。	☐ エリアを決めて活用されている方がいるので、林なり、雑木林で広がっていけばと思う。そういう人たちをどのようにして育てていくかを地域の良さを伝えながら検討していきたい。(WT)
5-12	雑木林で遊ぶ会といった活動を何らかの形でバックアップするような仕組みがあれば教えていただきたい。	☐ 検討していきたい。里親的に募集して、管理していただくようなことはやっているので雑木林についても同様に検討できるのではないかと思う。(WT)

6 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 A（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
6-1	民間でも子育て支援の取り組みが始まっているとあるが、これは具体的に何を指しているのか。	□つくば市子育て便利帳で“民間の取り組みを紹介しており、ここから引用している。(WT)
6-2	これらをピックアップしている理由はあるか。また、これらの団体は事業を継続することに非常に厳しい現状であるが、その実態について把握しているのか。	□便利帳を作成した担当者が班員にいないため把握していない。(WT)
6-3	子育て世代が地域とつながるための情報提供の仕組みが整っていないと感じる。小さな悩みや困りごとを本当に身近な場所で解消できるようなシステムを入れ込んでいただきたい。	—
6-4	出産できる医療機関が少ない。近隣の市町村と協力するような体制ができているのか。	□出産できる場所については、健康増進課としても課題として取り組んでいく。(WT)
6-5	保育士不足をどう解消していくのか。	□前向きに取り組んでいるニュアンスが盛り込まれるとよりよいと思う。(部会長)
6-6	学童保育について記載がないがどうなっているのか。学童保育について公立と民間とで金額や預かってもらえる時間に差があり、はしごしている家庭もある。解決に向けた考えなどはあるか。	□学童保育は何班に所属することになるか。(部会長) ■7 班とも協議して検討していきたい。
6-7	保育士の処遇を5年かけて改善すると記載されているが改善されるのか。	□実際に現在も取り組んでいるが、保育士確保が少しずつ進んでいる印象がある。(WT) □具体的に結び付く指標があれば、市民の皆さんも安心できる。(部会長)
6-8	「創意工夫にあふれた様々な遊び場の機会」の範囲をどこまで想定しているのか、今後検討してほしい。	—

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
6-9	「創意工夫にあふれた」という部分は誰の創意工夫か分からない。遊び場の作り手、整備する側の工夫なのか、そこで遊ぶ子どもの創意工夫なのか、「創意工夫を引き出す」など主体が分る様な文章にして欲しいと思う。	□表現については検討したい。 (WT) □冒険遊び場という言葉が使えれば一番いいと思う。(委員)
6-10	「多様な保育ニーズ」とあるが共同保育の考え、子育てを通じて地域とつながり、親自身も人間として成長できるという視点も盛り込んでほしい。	—
6-11	「一貫して相談できる専門組織を設置する」という言葉があるが、今ある子育て総合支援センター等と何が違うのか。	□今後開設予定の児童発達支援センターを想定している。(WT) □民間団体との連携も含めて幅広く柔軟に考えて頂けるとよい。(部会長)
6-12	「冒険遊び場」と言えるような場所があると思うかというところほぼゼロに近いので、ぜひ増加するような指標を設けて欲しい。	—
6-13	市民意識調査は何課が担当しているのか。今後、指標を追加する余地はあるのか。	■市民意識調査については事務局の企画経営課で担当している。現在の2年に一度を改め、毎年行えるような形で検討している。新たな設問の必要性が出てくれば追加という事は検討できると思う。(事務局)

7 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 A（1 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
7-1	P49 の「追及」は自分のことだけを追求するという意味か。	□文言については再度検討したいと思う。(WT)
7-2	ICT などの充実については、機材の調達にコストがかかるため、現実的に難しいと考えているがいかがか。	□つくば市は全国 ICT 首長協議会に入り省庁と連携して最適な方法で ICT の導入を検討している。その他、今あるアプリケーションや WEB の活用や、企業と交渉したコストの縮減に努めている状況である。(WT) □年間 10 億円くらいかかっている例もあるようだが、投資に関する覚悟が必要になる。(委員)
7-3	P52「早期教育」を記載した意図は何か。 P53 重点戦略の目的と方向性について、「すべての児童館」というと、児童館のみが対象と捉えられる。 「一般来館者数」を利用した指標について、飽和状態の中で設定しているため、別の指標に置き換えたほうが良いと思う。	□早期教育について、幼児になるよりも前に、英語などの教育をしたほうが良いという保護者の意見があることから記載した。(WT) □子供たちが放課後集まる場所として、児童館であると考えたため、市内公立施設として提案した。一般来館者を指標にするほか、施設の設備に関する指標を検討している。(WT)
7-4	基本施策について、子どもの主体性を発揮できる余地をつくることが課題であると捉えている。保育園の生活はとても忙しいため、生活の中に幼児教育を導入できる余地はないと思う。また、児童については主体性を発揮できるカリキュラムを具体的にご検討いただきたい。	□WT にて後日教育に関する議論をしたいと思う。(WT)

8 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 A（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
8-1	指標②について、外国の方に対するアンケートや相談件数の増加に対する予算はどのようになっているのか教えていただきたい。	■アンケートは日本語なので日本語を理解できる外国人は対象となる。 □外国人に限っての集計は厳しい。国際交流室でそのような指標を持っているのか確認したい。予算については今後考えていく。(WT)
8-2	重点戦略の中に教育現場での対応を付け加えるべきである。	□検討する。(WT)
8-3	外国人労働者について、その人たちに対する住みよいまちへの対応について入れておくべきである。	□検討する。(WT)
8-4	人間の能力は極めて多様である。ここに“いかなる障害を持っていようと”といった障害についても触れるべきである。	□近年では、一般的に「個性」という表現が多いが、そのような書き方はどうか。(部会長) □「個性」の中に性の多様性も含まれていると考えられる。(委員)
8-5	外国人の定住した人がいれば、満足しているということがわかるが、その指標についてなにか考えているのか。また LGBT の書き込みは可能であるか検討を行ったのか。	
8-6	まちなかの道路標示等もここに入れるべきではないか。他に扱っている班があるのか。	■他の班で扱っているところは今のところない。
8-7	つくば市では早くからユニバーサルデザインに取り組んでいるため、それを使ってうまくまとめるとよい。	□検討する。(WT)
8-8	チャレンジ支援の位置づけについて他の班でも似た内容が見受けられるが、違いはどうなっているのか。	□両班でそれぞれの役割について調整を行っているので、表現等については今後検討していきたい。(WT)

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
8-9	みんなのチャレンジを応援する室についてどのように考えているのか。	□相談窓口を設けることを考えている。(WT)

9 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 B（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
9-1	昨日の会議では「規制緩和」のような仕組み・ルールを促進しやすくするべきだという話があった。これらについては“柔軟に検討していく”のようなニュアンスで記載したほうがいいように思う。	—
9-2	基本施策と目標については書いてあるが、誰がやるべきかが分からない。知識集約を進めることはよいことだが、企業をもってきてもいいとすれば登記料を優遇するなどにより法人税を取得できるよう、登記し易くするような場所をつくることなど、自治体がやるべきこと、住んでいない人も呼び寄せることをしないとイケない。 2 番目の「地元で頑張る組織や人が成長し続けるまち」も、市民がやればよいなかで、自治体としてやらなければいけないものは何かについて考えるべき。規制緩和、法律を変えるなどとともに、誰が責任をもつのかについても検討すること。	□部会長：様々な取り組みにおいてボトルネックを解決する人が書けると、市の施策になるかどうかが見えてくる。全体の立てつけを再度レビューするとよい。
9-3	農業もいいことが書いてある。農業従事者を育てるのか、どこからか呼んでくるのかについて明確化すること。今、注力すべきは、後継者づくりで、6 次産業化やベンチャー企業化は必ずしも困難でない。農地を貸してくれる人と連携して、中間マージンが入らないような仕組みを作り、都内でも売れるような方法を考えるべき。農業未経験者が構わないので、どんどん人を呼ぶことが大切。また、今やっている人と次世代の人が手を取り合うことが重要。バラバラに作っても売れないので、同じ場所に集約できるまちづくり	—

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
	にしないといけない。	
9-4	施策１・２を通して、指標については、指標の達成が施策の実現につながるようなものを選ぶこと。納税額などを指標にすることもよい。また、57ページの「社会イノベーションが生まれるまち」は、自然科学だけでなく、人文科学についても考え及ぶとよい。	—
9-5	新規就農に対しては、農地の提供はできるが、住むところを提供することも大きな要素になると思う。	□ボトルネックとなる部分について、もう少し掘り下げるとよい。（部会長）
9-6	農業について、つくば市は、新規就農者が県内で一番多く、若い人に魅力を感じてもらえていることと思うが、一方、農家の跡取りが農業をやらないといった問題もある。新規就農者が農地を見つけることはそんなに難しくないのでは就農に関する色々な情報を活用して推進できるとよい。	—
9-7	60ページの“地元で頑張る組織”についての指標が「ふるさとハローワーク」を挙げているが、委員からも指摘があったように、行政が行うことの内容を明確にする必要がある。企業誘致した場合は、固定資産税を免除するなどの規制緩和策が重要となる。他自治体よりもポイントを絞って優位になる点を強調できるとよい。	□施策と対応する指標が設定されているかつについても検証するとよい。（部会長）

10 班の基本施策・重点戦略について：専門部会B（2日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
10-1	65 ページの 1 番目の指標（「科学のまちであることの恩恵」）は、聞き方、答え方が分からないとミスリードになる。戦略に適合する指標にするとよい。	—
10-2	低炭素の部分はつくばらしく、実現性の面でも、今のデジタルサイエンスの流れからいくとほどなくできるようになる。問題は、低炭素の推進について、何にコストを払い、コストに対するパフォーマンスをかけるかどうかの決断が必要になるということである。 公共交通の問題は 2 者択一で、一つは、公共交通を利用しやすくすること、もう一方は、ネットワークを作らない社会を選択することである。システムを広げて便利にするのかどうかを考えたうえで選択することが重要である。	—
10-3	掲げている指標が全てアンケート指標という点に疑問がある。65 ページの「近未来技術の社会実装」は、ロボティクスに偏りすぎているので、もう少し別の技術をいれてもらえるとよい。 63 ページの「地域モデル事業者の育成」は、個人情報情報の壁がある。先端技術やデジタルデータの活用にはチャレンジしてほしい。	—
10-4	重点戦略が市に偏っている印象がある。もう少し広域で考えられるとよい。 また、戦略の 3 については、市役所窓口の手続きの簡素化だけでなく、キャッシュレスの仕組みなども同時に検討する必要がある。	—
10-5	この戦略の指標が「マイナンバーカードの交付率」とあるが、達成には様々な要因があるので再考する必要がある。	—
10-6	新技術の導入については、つくば市は、すべての面でリードしている。公共交通（68 ページ）、低炭素化（69 ページ）については、具体的な方策を練って、重点的に行ってもらい、交通弱者が納得する方策で進めてほしい。	—

11 班の基本施策・重点戦略について：専門部会B（2日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
11-1	部会長からあったように指標については、より具体的に設定されておりよい。目標を高く掲げて頑張っていたきたい。 また、地元の学生が食品ロスについて情報発信したところなので今後の動向等に留意して慎重に取り組んでいただきたい。また、意識の改革として官民一体となって食品ロスについての取組を進めることと、脱プラスチックについても、海で害になっているなどの報道もあるので、レジ袋を使用しないなどの取り組みなども含めて進めていただきたい。	—
11-2	具体的で行動につながる指標になっていると思った。71 ページ目の食品ロス低減については基本法ができて推進されているところであるが、例えば、産業廃棄物として食品を出す会社と市民食堂を結び付けるなどの取組も将来に向けてチャレンジできるとよい。	—
11-3	指標は、個人が対象になっているが、事業系ごみの排出量も目標に掲げられないか。	□1 日一人当たりのごみの量は、計算により算定可能であるため指標にしているが、事業系ごみについては、総量は分かるが、どのように計算にいれるかは必ずしも要因でなく、悩ましい状況である。（WT）
11-4	リサイクル率は向上していても県・全国平均に及ばないという記載があるがその原因はどのようなものか。	□リサイクルの定義が調査年により数値が動く特徴がある。原因についてはまだ明確になっていないが担当課とも共有する。（WT） □関係者の中に行政が入っていない施策・戦略が

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
		あるので再度検討していただきたい。秋には、予算の検討があるので、市として何をやるのかを考えておくことがよい。(部会長)
11-5	「ごみの概念がない」など、良いコンセプトを掲げていたが、5R を 3R にしているが、トーンが弱まっているということにはならないか。	□10R などは 3R を細分化したものである。3R であればそれらの概念を包括するものであるので修正させていただいた。(WT)

12 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 B（1 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
12-1	区会、ボランティア団体、NPO などの活動支援についてわかりやすく戦略プランで記載していただきたい。 若い世代の区会の加入促進について検討していただきたい。	□重点戦略 1 について、つくば市の地域団体への支援についてわかりやすく記載することを検討したいと思う。重点戦略 2 について、若い世代の加入促進に関する記述を検討したいと思う。(WT) □若い世代は生活スタイルが変わってきているため、区会の活動に理解の上加入していただくことが課題であると認識している。(WT)
12-2	現時点でつくば市の中で地域団体を支援する条件、ルールなどは明確に存在するのか。市民共創という点では重点戦略 2 はとても良い試みであると思う。	□市民活動支援について、現状各担当課で対応している状況である。市民活動支援に関する記述を上手に表現できたらと思う。(WT)
12-3	かつて、区会はいくつか市の中でも重要なポジションであったが、現時点では任意で加入するような形態になっているため、区会の加入率を高く設定すると達成のハードルが高く感じる。	—
12-4	市民活動と科学技術をどのようにして関わらせていくかという点に期待をしている。	—

12 班の基本施策・重点戦略について：専門部会 B（2 日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
12-5	子供会にも入らない方も増えているなか、区会に代わるものはあるのか。	□区会のような組織がないと、次の代の居住地の選択の際にアンバランスがでてくるのではないかという気がする。(委員) □区会については、両面で政策をうつべきという印象がある。一つは、従来の区会組

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
		組織は必要で、今年度、回覧板をメールで配信する取り組みを開始した。もう一つは、区会サミット、区長サミットにて、好事例を横展開するとともに、区会以外で行政が協働していくべき組織についても検討していくことである。(委員)
12-6	市民共創については、進め方が従来のようなスタイルになっている。職員との間で、どんどん入っていくということを受け止めてもらえるとよい。市民とともにやるということがわかるとよい。	□施策としては今後5年かけてしっかり市民参加を推進し、6年目からはこれを「促進」することとして発展させていくことを考えている。(WT)
12-7	区会の話に戻るが、若い人の取り組み方や大学生が市民としてとりいれられない問題がある。市としても、大学生や若い人も市政に参加できるということも、新しい市民共創もある。	—
12-8	SDGs パートナーズとは。	□企業やNPO等の団体が30団体・120名くらいで講座をうけてもらうもので、筑波大の協力も得ながら、課題発見と科学技術による解決について年2~3回ワークショップを行っている。

13 班の基本施策・重点戦略について：専門部会B（2日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
13-1	観光振興について、重点戦略の指標が市民意識調査であるようだが、観光について市民が判断できるのか。その辺りに関する議論はあったか。	□指標として「観光入り込み客数」も考えていたが、統計上、過大に出ているようで、設定が難しい。(WT)
13-2	ここにある施策を進めることができればつくばがより魅力的なまちになるということだと理解するが、科学技術などが分かれているため、少し物足りなり気がする。	—
13-3	魅力については住んでいる人は分からないこともある。外の人から見たアンケートについて考えるかどうか。指標に代表されるように何がボトルネックになるかが見えてくる。	—
13-4	指標については「市民意識調査」のみで物足りない。力点をおいている取り組みについて具体的な数値でなくともよいので再度検討するとよい。 文化芸術の推進があるが、財団と文化芸術課で一緒に考えているが、最近では、周辺地区のお年寄り等にも楽しんでもいただくことを目的に実施しており、それらの取組を具体的に見せることがよいと感じた。	—
13-5	17 ページ・18 ページを見比べているが、非常に幅が広い。3 班の空き地・空き家と、いま紹介いただいた空き家の部分についての相互の関連性をチェックする必要がある。	■防犯防災と安全管理の2つの切り口で見ている。(事務局) ■最終的には整合を確認して作りに上げる。(事務局)

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
13-6	指標については、全体的にアンケートを活用することになっていて残念な印象。数値化できるものは数値で示すのが良い。観光客数などは検討したけど載せないこととしたのかなど、経緯を教えていただきたい。	□観光客数については、指標を大幅に超えており、指標として設定することを控えた。(WT) □観光施策の努力が報われる指標になっているのかが分からない。(部会長) □観光客数やイベント開催数などをみていけるとよい。同様に、スポーツ施設の利用者数の動向や老朽化施設の解消などが増えたなど考えていただきたい。(委員)
13-7	つくば市にある資源を生かしてということで、いろいろな意見がでていますが、つくば市がもっている大きな資源には“人”がある。インターナショナルWSは、色々な都市で誘致合戦をしている。県内では、つくばではできるが水戸ではできないなど、優位性があるので、どこかに加えていただき、例えば「日本一のWSを開催することを目指す」なども反映してもらえないか。	□つくば国際会議場は、日本でも5本指に入る会議場である。これを活用するための方策など、観光政策の方でも検討中であるが、市として何ができるのかをビジョンとして考えられるとよい。(部会長) □KPI などについて議論しているがアクションにつながるKPI についても考えていく必要があることを今後考えていきたい。(委員)

14 班の基本施策・重点戦略について：専門部会B（2日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
14-1	「緑豊かでイノベーションを創出する研究学園地区の推進」における“研究学園地区”とは、どの範囲か。	□研究学園地区は、筑波研究学園都市建設によってつくられた地区を示している。(WT)
14-2	掲げている戦略に対する指標がミスマッチしているものがあるので、別の指標も検討すべきである。	□現在、仮置きになっているものもあるので再度検討したい。(WT)
14-3	91 ページの「豊かな自然や農村集落の持続」については、レクリエーションゾーンの充実なども考えていただけるとよい。	□主要プロジェクトとセットで、今後検討したい。(WT)
14-4	18 ページの 2030 年の未来像の中に「世界中から人を惹きつける」などの記載があるため、市民以外の概念もあわせて取り組むことがあるほうがよい。	□次の13班でも観光について触れているので、その際にもご意見いただければと思う。(委員) □体験に出会えるまちとある。例えば、祭りもあるかもしれない、もうちょっとつめてもらえるとよい。(部会長)
14-5	“緑”だけでなく、建造物やペDESTリアンデッキについてもどこかででてくるのか。素晴らしい建造物もあるので、老朽化対策など要素としてアピールしてほしい。	—

15 班の基本施策・重点戦略について：専門部会B（2日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
15-1	PR と言っているのは、市民向けか市外・観光客向けのことを言っているのか、両方なのか、指標をみると市民向けのように見えるが、どちらなのか。	□今後明確化するが、市民向けで考えている。SNS については、市外の注目を集めていきたいということも狙っているが、指標の取り方としては市民向けで考えている。(WT) □「市民発信数」などの指標をいれてもらえると分かりやすい。また、94 ページにも記載してあるが、つくば市としての統一グランドデザインなどをいれるとよい。(委員)
15-2	PR とは直接関わらないかもしれないが、ラジオつくばや災害メール、市の行事・補助金の情報発信など、市民にとって有益な情報を身近なツールで流していくことが大事な取り組みと思う。防災無線などの有事の際の提供や観光部署など他部署とも連携して提供してもらえるとよい。	—
15-3	職員研修の内容はどのようなものか。	□課題の掘り起こしというよりは、情報発信のスキルを向上させる研修と思っている。(WT)
15-4	ホームページを見る人は、市民だけでないが、外部から見られているかどうかを検証しているか。	□検索に関する分析は、グーグルアナリティクスで分析可能である。データの解析スキルなども今後高めていけるとよいと考えている。(WT)

その他：専門部会B（1日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
B-1	つくば市は国と連携し、データ集積に関する様々な取り組みを行っているため、データを核にした産業などを今後展開し、先進的な都市になりうるということが考えられる。	—
B-2	つくば市の提案された事業がスマートシティ構想に採択されたため、この流れを活かしたまちづくりを積極的に行ってほしい。	—
B-3	パーソナルモビリティを実現するにあたり、つくば市内での技術を育てていく場を作る必要があると思う。	—
B-4	Maasの取り組みなど、つくば市の地域格差をなくした交通を検討してほしい。	—
B-5	民間企業が持っている技術と、市が持っている情報を活かすことで、市民が満足できるサービスの提供ができると考えている。 科学技術の恩恵がつくば市民に届いていない状況であるため、今後解消する必要があると考えている。	■庁内にストックされている情報の提供について、今後検討する必要があると考えている。つくば市民に科学技術の恩恵を知ってもらうために、より一層行政がアピールする必要があると考えている。（事務局）

その他：専門部会B（2日目）

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
B-6	秋に向けて修正していくこととなるが、その視点として、ボトルネックの分析が甘いのではないかということ、解決する人も含めた関与者などの視点を追加することなどについてブラッシュアップすること。 もう一つは、指標の設定について、施策とのつながりについて検討してもらいたい。PDCAのCになるようにもう少し検討してもらいたい。	—

No.	意見内容	回答 ■事務局 □その他
B-7	調書を作る際は、総花的になりがちだが、その中でも力点を置くためにもメリハリをつけたほうがよいと感じた。部会長がいったように、行政のすべきことをどのように表現するかも重要となる。施策を進める中で問題・課題があり難しいとは思いますが、怖がらずに課題を掘り起こしてほしい。	—
B-8	つくば市の戦略なので、つくば市がどうするかを前面に出すこと。 つくば市が各関係者に対してどのようにアプローチしてうまく進めていくことが見えるようなフォーマットにアレンジできるとよい。今後の戦略に基づき、市としての行動が見えるように表現してもらえるとよい。 指標については、アンケートの数値だけでなく、行動・結果の関係性を意識してもらいたい。	—
B-9	関係者の中に担当課の欄も設けるなどの工夫も必要である。 秋までのスケジュールについてについてはどのように考えるか。	■次回までに他の部会とも調整し、プロジェクトの紐づけ作業を行い、ストーリー化して主要プロジェクトすり合わせ等をしていく。10 月中に開催する予定である。(事務局)